

「ホワイトファイバー」の特徴

「ホワイトファイバー」は、長野県農事試験場麦類育種指定試験地が、早生・多収・糯性などを目的として、平成10年から育成を進めてきた「もち性大麦」の品種で、平成28年10月に宮城県の優良品種として採用されました。近年、生産量が徐々に増えています。



左：ホワイトファイバー
右：シュンライ

○今売れている、注目の「もち性大麦」

「もち性大麦」は水溶性食物繊維「β-グルカン」を豊富に含んでおり、健康志向の高まりを受けて需要が急拡大していますが、市販されている製品の多くは、外国産の原料を使用したものです。

外国産と比べ、炊飯したときの茶色味が目立たないことや、国産志向の高まりから、国産の「もち性大麦」には強い需要があります。



ホワイトファイバー 市販もち性大麦 (外国産)

○収量性に優れる

「ホワイトファイバー」は「シュンライ」と比較して、やや多収です。

古川農業試験場における収量調査の結果 (H23~27平均)

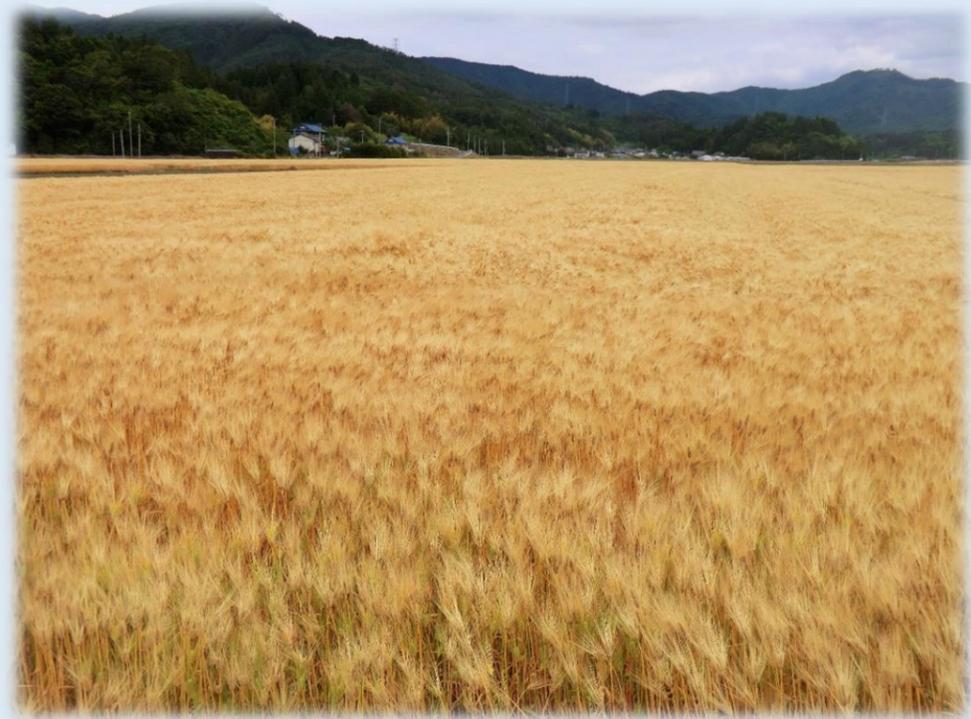
ホワイトファイバー	シュンライ
534kg/10a	496kg/10a

○良品質：精麦白度が高い



ホワイトファイバー 市販もち性大麦 (外国産)

もち性大麦 「ホワイトファイバー」栽培マニュアル (第2版)



発行 宮城県農政部みやぎ米推進課・古川農業試験場

【みやぎ米推進課】

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL:022-211-2841 FAX:022-211-2849

【古川農業試験場】

〒989-6227
宮城県大崎市古川大崎字富国88
TEL:0229-26-5108 FAX:0229-26-5102

本マニュアルの内容は、県ホームページでもご覧になれます。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/mugi-daizua.html>



宮城県農政部

「ホワイトファイバー」栽培ごよみ

月旬	9月		10月		11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月										
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
生育ステージ	出芽期															幼穂形成始期			幼穂形成期			茎立期			減数分裂期			出穂期			開花期			成熟期		
主な作業	播種準備		播種		踏圧（越冬前）											踏圧（越冬後）			幼穂形成期追肥			減数分裂期追肥			赤かび病防除（1回目）			赤かび病防除（2回目）			収穫					
	茎葉兼土壌処理剤散布											茎葉処理剤散布			茎葉処理剤散布																					

ほ場の準備	施肥及び播種	栽培管理	追肥	収穫及び乾燥調製										
<p>○排水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 弾丸暗きよ 本暗きよに直交させ、2～3m間隔で施工する。 明きよ 10～30m間隔で施工し、排水路につなぐ。 <p>○酸度矯正</p> <ul style="list-style-type: none"> 土壌pH 6.0～7.0 土壌診断を行い、苦土石灰で矯正する。 <p>○碎土率</p> <ul style="list-style-type: none"> 70%以上 耕起は土壌水分が低いときに行う。 	<p>○基肥（10a当たり成分量）</p> <table border="0"> <tr> <td>窒素</td> <td rowspan="3">} 8～10kg</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> </tr> <tr> <td>加里</td> </tr> </table> <p>※稲わらをすき込む場合は10～20%増やす。</p> <p>○播種適期</p> <p>北部平坦地域 10月10～20日 南部平坦地域 10月20～30日</p> <ul style="list-style-type: none"> 播種期が適期より遅れると、β-グルカン含有率が有意に低下するので、適期播種に努める。 <p>○播種量</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗立ち本数200本/m²、越冬前の茎数500本/m²を確保できるよう、播種量を調整する。 9kg/10aが概ねの目安となる。 播種適期から遅れた場合は、苗立ち本数を確保するため播種量を増やすが、多くても12kg/10a以内とする。 <p>○播種深</p> <ul style="list-style-type: none"> 3cmを目安とする。 <p>・「ホワイトファイバー」は、「シュンライ」より千粒重が小さいので、「シュンライ」の播種量を超えないよう、播種量（重さ）を調整する。</p>	窒素	} 8～10kg	リン酸	加里	<p>○踏圧（麦踏み）</p> <ul style="list-style-type: none"> 越冬前 1回（3～4葉期） 越冬後 1～2回（融雪後～茎立期） 耐寒性強化、凍上害防止、生育均一化等のため、上記を目安に踏圧を行う。 適正な踏圧は、茎数の確保や品質の向上に効果があるので、越冬前1回・越冬後1～2回を目安に必ず行う。 	<p>○追肥量（10a当たり窒素成分量）</p> <table border="0"> <tr> <td>（株直し）</td> <td>2 kg（硫安10kg）</td> </tr> <tr> <td>幼穂形成期</td> <td>2.5kg（硫安12kg）</td> </tr> <tr> <td>減数分裂期</td> <td>2.5～5.0kg（硫安12～25kg）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 減数分裂期では、葉色（SPAD 値）を目安に追肥する。減数分裂期の葉色（SPAD 値）が41 以上の場合、2.5kgN/10a を追肥する。減数分裂期の葉色（SPAD 値）が41 未満の場合、5.0kgN/10a を追肥する。 <p>○追肥時期の目安</p> <p>株直し 2月頃 ※生育量不足、葉色が淡い場合に行う 幼穂形成期 幼穂長が2～3mm程度 減数分裂期 幼穂長が30～50mm程度</p> <ul style="list-style-type: none"> もち性大麦の特徴を活かした製品では、高いβ-グルカン含有率が求められる。β-グルカン含有率の低下を避けるため、幼穂形成期と減数分裂期の2回、必ず追肥を行う。 	（株直し）	2 kg（硫安10kg）	幼穂形成期	2.5kg（硫安12kg）	減数分裂期	2.5～5.0kg（硫安12～25kg）	<p>○成熟期の判定</p> <ul style="list-style-type: none"> 茎葉、穂首が黄化 子実のほとんどが指でつぶせない <p>○収穫適期</p> <ul style="list-style-type: none"> 子実水分30%以下（成熟期3日後頃から） <p>○乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> 穀温が40℃を超えないよう送風温度を調整する。 <p>○調製</p> <ul style="list-style-type: none"> 篩目 2.3mm 子実水分 13.0%以下 <p>・「ホワイトファイバー」の穂発芽性は「中」である。刈遅れは、外観品質、加工適性、両方の低下要因になるので、適期収穫に努める。</p>
窒素	} 8～10kg													
リン酸														
加里														
（株直し）	2 kg（硫安10kg）													
幼穂形成期	2.5kg（硫安12kg）													
減数分裂期	2.5～5.0kg（硫安12～25kg）													

雑草及び病害防除

播種 出芽期	幼穂形成期	穂ばらみ期
--------	-------	-------

土壌処理除草剤の例	
・クロロIPC乳剤	・ガレス乳剤
・シナジオ乳剤	・ゴーゴサン乳剤
・ロックス	・トレファノサイド乳剤
	・リベレーターフロアブル

茎葉兼土壌処理除草剤の例	
・ハーモニーDF	（節間伸長前）
・ボクサー	（秋播大麦2葉期まで）
・リベレーターフロアブル	（3葉期まで）

茎葉処理除草剤の例	
・MCPソーダ塩	（幼穂形成期、但し収穫45日前まで）
・アクチノールB乳剤	（穂ばらみ期まで）
・エコパートフロアブル	（節間伸長開始期まで、但し収穫45日前まで）

※農薬登録は、令和5年10月10日現在のものです。最新の登録情報を確認してから使用してください。

1回目
開花始期～開花期



2回目
1回目の7～10日後

薬剤の例	RACコード	
・ストロビーフロアブルF:11	※薬剤耐性菌対策のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
・トップジンM水和剤・ゾルF:1	
・シルバキュアフロアブルF:3	
・チルト乳剤25F:3	
・ワークアップフロアブルF:3	

「ホワイトファイバー」の赤かび病抵抗性は“やや弱”。適期防除を行う。